

感染症高リスク群にも長期に有効な次世代ワクチンを届けます！

自己紹介

研究代表者：藤井眞一郎
国立研究開発法人理化学研究所
免疫細胞治療研究チーム・チームリーダー
創薬・医療技術基盤プログラム・副プログラムディレクター



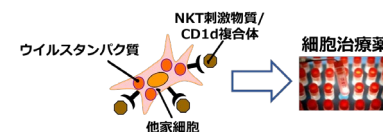
理化学研究所
横浜キャンパス



どんな新しい技術ですか？

本ワクチンは、aAVCと呼び、その細胞表面にNKT刺激物質とCD1d分子の複合体、細胞の内側にウイルス蛋白を発現させた新しい細胞ワクチンです。薬効として自然免疫の活性化を利用して、抗体産生、抗ウイルスキラーT細胞等の免疫を包括的に効率よく誘導します。更に長期に上記の免疫効果を発揮できることが期待されます。抗原を作り替えることで様々な感染症、癌などにも応用が可能です。このモダリティを使い、従来のワクチンでは抗体産生が不十分な高リスク群の方々にも有効な予防ワクチンの実現を目指します。

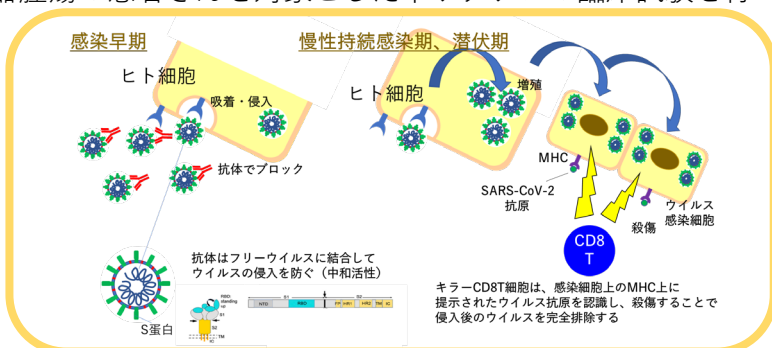
aAVC(エーベック) の特長



- 他家細胞を利用するため、患者さんの負担が少ない
- 安定した品質・細胞数を確保でき、製造コストが抑えられる
- 治療効果に加え、長期記憶免疫による、再発予防が期待できる
- タンパク質を入れ替え可能なプラットフォーム技術である

どんな研究ですか？

COVID-19のパンデミックはmRNAワクチンの普及で健康な方にとってはその脅威は終息したかのようにみえますが、がんの患者さん等高リスク群の患者さんにおいては抗体値が低い方々がおられ、今後も変異の可能性を考えると完全には解決していない問題です。そこでウイルスを身体から排除し、重症化を阻止するメカニズムとして抗体価上昇のみならずキラーT細胞誘導が注目されています。新しいワクチンとして、キラーT細胞の誘導に優れたワクチンを開発しています。本プロジェクトでは、造血器腫瘍の患者さんを対象とした本ワクチンの臨床試験を行います。



どんなことが解決できますか？

1. 研究開発の目標

変異株によらないキラーT細胞を誘導し、長期記憶化させるワクチンの開発を目指します。特に基礎疾患により抗体ができない方、出来ない方など免疫低下状態の高リスク群においてもキラーT細胞の誘導、及び抗体価上昇を確認し、実用化につなげることを目標にします。

2. 期待される成果

免疫低下している人においても長期に免疫が成立することを示し、がんの患者さんがCOVID-19に罹患しても全てのウイルスを身体から排除できる新しいワクチンになります。次に、ウイルスに対する免疫と同時にがんに対する抗腫瘍免疫も誘導できる「新しい免疫薬」を作り出すことで、がん治療の途中でも使用できるようになります。これによりがん治療中止に伴う癌の再発の危険性を回避し、がん治療に伴って起きうる感染症の不安を取り除き、日常生活をおくることができると期待できます。最終的には、誰にでもどんな方にも使用できる新しいワクチンを目指します。

基本情報

対象病原体	SARS-CoV-2
モダリティ	人工アジュバントベクター細胞
投与経路	静脈内投与
研究開始時期	2023年11月
開発企業 (アカデミア) 連携の有無	香川大学、東京大学、日本医科大学 国立感染症研究所、日赤医療センター